

太宰府キャンパスネットワーク会議
令和6年度 学生連絡会委員
筑紫女学園大学 現代社会学部3年



ふじまる ゆめ か
藤丸 夢叶さん

筑紫女学園大学に入学してから今日まで、ほぼ毎日太宰府のまちに降りて太宰府の地を歩いています。

大学入学前から太宰府天満宮には何度も参拝したことがあり、太宰府はとても好きな場所です。現在は授業が終わった後太宰府天満宮に寄ったり、参道で食べ歩いて帰ったりと、太宰府を堪能しています。

私の所属している現代社会学部では地域の方と一緒に太宰府を歩き、歴史などを教えていただきながら太宰府について学ぶという授業があります。そこでは太宰府全体の魅力を学び、太宰府に住む地域の方々の温かさに触れました。地域の方々は太宰府の事が大好きで、もっとたくさんの人に太宰府を知って欲しいという気持ちに溢れていて、私はなんて素敵なのだろうと心が温かくなりました。

太宰府に通う大学生として太宰府のために何かできることはないか、太宰府の魅力を沢山のの人に広めるためにはどうすればいいのか、これからは考えていこうと思います。

特集

梅雨の大雨・台風に備える

..... 2~4

地域と共に

国際交流してみませんか... 8~9

令和6年度市民税・県民税

定額減税のお知らせ..... 10

市からのお知らせ... 12~17

連載..... 18~27

なんでも情報コーナー... 28~35

太宰府の文化財..... 36

市政ニュース

令和の都だざいふ

令和改元五年記念式典・「子ども梅花の宴」を開催

元号令和改元から5年の節目に、記念式典と「子ども梅花の宴」（太宰府市子ども・学生未来会議）を4月29日（月・祝）に開催しました。

式典では、西鉄福岡駅の電子掲示板、参道フラッグ、客館跡フェンスなどでの新たなPR、令和発祥の地記念碑、大宰府展示館に設置した大伴旅人をモチーフとした博多人形とおおどものたびとパネルをお披露目しました。また、市内を楽しく周遊できるスタンプラリーも同日スタートしました。

「子ども梅花の宴」では、市内5つの子ども会や太宰府ジュニアリーダーズクラブの小中高中生20人が参加し、1300年前の本番さながらに万葉集「梅花の歌」から1首、太宰府の今・未来について自分の思いや願いを込めた歌1首を詠みあげました。



大伴旅人をモチーフとした博多人形



「子ども梅花の宴」で和歌を詠む参加者

歳出入一体改革 **すぐやる班出動**

本年度施政方針重点項目の一つ歳出入一体改革の目玉として4月から発足したすぐやる班が早速出動しています。同じ観光地である京都の参道で桜の木が倒れけが人が発生した事故も受け、市内樹木を一斉点検し報道にも取り上げられました。同じく愛媛で倒れてけが人を出したカーブミラーの点検やいのしし対策など、今後も市民のニーズにスピーディーに応えていきます。



桜の木を点検する様子

まちのトピックス

世界に羽ばたく人材育成

おおはら ひな **大原陽菜さんがショートトラックスピードスケート日本新記録樹立**

本市在住・筑陽学園中学校1年生のおおはら ひなさんが、本年3月に長野県で行われた第71回全日本都道府県対抗ショートトラックスピードスケート競技会女子3000mに出場し、栄えある成績を報告しました。

大原さんは、これまで24歳の選手が持っていた日本記録のタイムを2秒ほど上回り、9年ぶり・最年少で日本新記録を更新し、見事優勝しました。

大原さんは「とてもうれしかったのが一番。まさか新記録が出せると思っていなかった。将来はオリンピックで金メダルを取りたい」と力強く目標を語りました。

楠田市長は「13歳という若さでの功績は、市民の誇りであり、ありがたううれしいニュースです。ぜひオリンピック金メダリストをめざしてこれからも頑張ってください」と激励しました。



日本新記録樹立を報告した大原さん(左)



競技に臨む大原さん(中央)

世界に羽ばたく人材育成 **フィジー留学生が筑紫台高校女子ラグビー部に加入**

フィジー共和国から、ミリアマ・ブカさん(16歳・写真中央左)、ルイジアナ・ドゥラニレクツ・ティナイ・ツカナさん(15歳・中央右)が、筑紫台高校の女子ラグビー部に加わったと報告がありました。監督が自ら、国民の4人に1人がプレーするほどラグビーが盛んな現地を訪れ、優秀な選手をスカウトしました。

2人は「家族をサポートできるようになりたい。女子ラグビー日本代表になることが目標」と語りました。楠田市長は「遠い日本に来ることは勇気が必要だったと思います。その勇気に報いるよう全力でサポートします」と激励しました。



意気込みを語った留学生2人

企業からの寄贈 **梅をデザインした鯉のぼり寄贈**

本市でひな人形や鯉のぼりなどの販売事業を行う株式会社松屋から4月27日(土)、梅をデザインした鯉のぼりを寄贈していただきました。おまつしのぶ 大松忍代表取締役は「地域に喜ばれることをしたいとずっと考えていた。この鯉のぼりを見て、笑顔になってほしい」と話しました。



寄贈された鯉のぼり

子どもまんなかの施策展開 **市立小・中学校すべてにサポートルームを設置**

教室に入りづらいと感じる子どもを支援する「サポートルーム」を本年4月から本市立小・中学校すべてに設置しました。本年度施政方針重点項目子どもまんなか施策のひきこもり不登校対策の中核です。市立小・中学校全校にサポートルームを設置し、担当の教員を配置するのは全国でも珍しく、県内自治体では初めてです。子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりに取り組みます。



水城小学校のサポートルーム▶

全世代居場所と出番構想 **移動図書館「すくすく号」のお披露目式を開催**

5代目になる移動図書館「すくすく号」のお披露目式を4月30日(火)、行いました。新車両は、お馴染みの黄色の車体に、令和の都だざいふ応援大使おとものタビットと市民図書館のキャラクターひよこが仲良く本を読んでいるイラストが描かれています。可動式リフトにより、車いすやベビーカーのまま乗り込み、本を直接選ぶことができるようになりました。

新しくなった移動図書館「すくすく号」をぜひ利用してください。

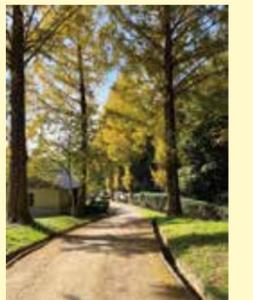


すくすく号の前でレプリカのキーを渡す井上教育長

全世代居場所と出番構想 **市民の森の愛称が決定しました**

市内在住者に公募していた市民の森の愛称が4月19日(金)、決定しました。応募総数45件の中から、複数の応募があった「令和の森」「たびとの森」「まほろばの森」を組み合わせて、愛称は『令和たびとのまほろばの森』になりました。

全世代の皆さんの憩いの場、交流の場として親しんでもらえるように、今後も市民の森の魅力を発信していきます。



愛称「令和たびとのまほろばの森」となった市民の森

企業からの寄贈 **災害時に備えて洗口液を寄贈**

本市の専用ごみ袋の製造を受託しているヨシタケTS株式会社から4月30日(火)、洗口液(マウスウォッシュ)の寄贈を受けました。

災害時の避難所生活では、口内ケアがおろそかになり、誤嚥性肺炎を発症しやすくなります。寄贈のあった洗口液は、個包装1万2000包。水なしで使え、口内を清潔に保つことができます。本年1月1日に発生した能登半島地震を受け、市内で大規模災害が発生した時、支援の力になりたいとの想いから、寄贈を受けました。



寄贈式の様子